

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	3年間で地域の大人たちが子どもの健康と安全を自律的に保障する学校地域社会の形成を目指している。保護者が子どもの健康と安全への理解を深め、学校運営に自ら関わり、自主的に子どもの安全な学習環境を形成することを目指す。地域保健ボランティア(CHV)を育成し、子どもの健康と安全を守る言動が自発的に展開されることを目指す。行政官が、子どもの健康と安全の課題への理解と効果的な住民への行政指導などを図ることを目指す。また、相乗効果を目指して、CHVを育成する準地区を、教室構造補修など学校運営能力向上を実施する優先準地区とした。準郡の小学校を訪問して当会の事業で補修・建設した教室で会議を行なった公衆衛生官が、それら教室の安全性や快適性を認識し、当会のデザインや住民参加の利点を各校での研修で紹介する行政指導の事例が発現した。また、CHVが、小学校で保護者への栄養研修を実施したり、保護者と協力してトイレ清掃を行なった事例も確認された。
(2) 事業内容	本事業は、子どもの安全を脅かす老朽化した教室を保護者が構造補修などを行う(ア)保護者の学校運営能力向上、CHVを育成する(イ)地域保健戦略の強化、行政官が、子どもの健康と安全の課題への理解と効果的な住民への行政指導などを促進する(ウ)行政関係者との協働から構成している。CHVを育成する準地区を、学校運営能力向上を実施する優先準地区として、両者の相乗効果を目指している。 (ア) 保護者の学校運営能力向上 2年次では、1年次の2準地区にイトウンドウイムニ、ズキニ、ミクユニ準地区を加えた計5準地区で優先して事業を行った。対象準地区の多くの学校では、8年生までの教室が存在し新たな教室が必要な学校が少なく、また、地形から想定より小規模なリテンド壁で効果が達成できたことから、それらの予算を教室構造補修が必要で、且つ意欲のある学校に充当した。 a. 教室構造補修:2年次6校12教室の計画に対し、11校21教室で教室補修を実施した。うち、11校15教室で補修が完了、6校6教室では、年度末までに資材を供与し、作業を継続している。 b. 教室建設:教室建設は、2年次3校3教室の計画に対し、建設を完了した教室数は1校1教室。 c. リテンド(土留め)壁建設:教室基礎周りの土壌流出で、脆弱な基礎にリテンド壁を設置し教室を安定させる活動は、3校の計画に対し、5校で実施した。うち4校では、建設完了後、教室補修を行い、1年次から継続していた1校ではリテンド壁の建設を完了した。 d. 水タンク設置:マチャコス郡地方政府が、マシंगा準郡の全校へ大型水タンクを供与したため、水タンクの設置は行わなかった。 e. 保護者の環境活動:環境活動は2校で実施する計画に対し、2校でAフレームを用いた土壌保全、乾燥野菜の研修などを実施した。 f. CDFの教室補修への助言: 2016年2月の機構改革により、国会議員選挙区開発基金(CDF)は新国会議員選挙区開発基金(NGCDF)へと移行し、財務官よりCDFが行ったような当会との協力を賛同を得た。2年次に2校で行う計画に対して、1校では、NGCDF資金による2教室補修で、当会の事業経験を踏まえた構造強化につながる補修の視点や手法が適用されていることを確認した。2校で、活動を提案する保護者会を開催した。

g. 上記 6 つの活動における保健研修:

子どもの健康と CHV との連携に関する研修を 1 校で実施した。当会の活動での知識を活かし、CHV が小学校で栄養研修を行った。

(イ) 地域保健戦略の強化

1 年次に形成した 2 地域保健単位(CHU)の活性化のための活動を継続しつつ、新たに 2CHU を形成し、3 年次の 1CHU 形成準備も始めた。

- a. 地域リーダー保健研修: CHV 育成研修の導入として地域リーダー保健研修を 2 準地区 80 人に実施する計画に対し、1 合区と 2 準地区で計 165 人が修了した。
- b. CHV を知らせるための村訪問: 2 準地区全村を訪問し、30 村 60 回の訪問で 1200 人との村人会議を開催する計画に対し、1 合区 1 準地区 37 村を 56 回訪問し 1156 人が参加した。CHV の意義・役割と無報酬であること、住民が CHV を支援する意味を説明し、CHV 候補 98 人を選出した。
- c. CHV 育成研修: 4 週間で地域保健戦略とヘルスケアの理論研修、住民の健康情報を収集する実践研修、医療施設での医療実務研修を行った。1 合区で 39 人が修了し、1 準地区で約 40 人が医療実務研修中で、2CHU がほぼ形成された。
- d. CHV フォローアップ研修: 日常の保健活動を開始した CHV に追加的な研修を 10 回実施する計画に対し、子どもの保護研修の 1 回実施にとどまったが、3 年次での実施目途がついた。
- e. エイズ・リーダー研修: CHV が住民へエイズ情報を提供する能力向上研修を 3 準地区 90 人に実施する計画に対し、1 合区 3 準地区で 102 人が修了した。
- f. CHV によるエイズ学習会: エイズ・リーダー研修の修了者が、地域エイズ学習会を 20 村で開催し、住民 300 人が参加する計画に対し、7 村 122 人が参加した。

(ウ) 行政関係者との協働

当会と行政関係者と協働で、地域の問題分析、事業形成、モニタリング、評価を実施し、実施マニュアルを作成する活動に取り組んだ。

- a. 準郡レベルの行政関係者会議: 準郡中央行政局・保健局・教育局および NGCDF マシニング事務局と個別に関係者会議を年 2 回計 10 回開催する計画に対して、準郡中央行政局 2 回、保健局 30 回、教育局 5 回、NGCDF 事務局 3 回、児童局 4 回の計 44 回実施した。(イ) 地域保健戦略の強化においては、保健局が当会と協働しつつ、CHV の地域保健活動への積極的な関与を促し CHU を活性化させるため、頻繁に関係者会議を実施した。また、保健局とは、CHV への研修マニュアル作成や CHV による学習会の形成・改善をすすめている。
- b. 地区レベルの行政関係者会議: 深刻な課題が発生した場合、臨時に協議するため 2 年次には 0 回の計画であったが、6 準地区で、事業趣旨の説明および住民参加の側面での協働の協議を 6 回実施した。
- c. 準地区レベルのリーダー会議: CHV を育成する 4 準地区において 2 年次にそれぞれ 2 回で計 8 回の関係者会議の開催の計画に対して、CHU 形成・活性化に取り組んだ 6 準地区で、具体的な課題について協議するリーダー会議を 20 回開催した。

(3) 達成された成果	(ア) 保護者の学校運営能力向上 【期待される成果】保護者が子どもの健康と安全の保障に関連する知識・技能・視点を習得し、学校運営へ主体的に参加することで、安全な学習環境の形成を自律的に展開する。2 年次は、教室構造補修、教室建設、リテンド壁建設を 13 校、環境活動を 3 校、CDF の教室補修への助言を 1 校で実施、延べ 12,092 人の保護者が研修に参加した。 【成果を測る指標】 a. 教室の構造補修、建設により良好な学習環境が形成される。 子どもたちが安全に授業を受けることができる教室数： 【開始時】378 教室(総教室数 63 校 504 教室うち 75%(当会実績値による推計)) 【1・2 年次】471 教室(93 教室増：うち本事業 31 教室、住民活動 62 教室(NGCDF 予算書による推計含む)) b. 安全な教室で授業を受けることができる生徒数が増加する。 安全な教室で授業を受けることができる生徒数： 【開始時】13,230 人 【1・2 年次】16,485 人(3,255 人増 93 教室改善) ：→1 教室の標準生徒数 35 人から計算 (標準生徒数：対象地区生徒総数 17,413 人÷504 教室) (イ) 地域保健戦略の強化 【期待される成果】CHW が無償の保健活動を地域で実践し、子どもの健康と安全を守る行動が発現する。 【成果を測る指標】 a. 対象準郡において「本事業の CHU 形成」と「当会助言による準郡保健局の自律的な CHU 形成」により、無償保健活動の基盤となる CHU 形成率が増加する。 CHU 形成率： 【開始時】35.7%(28 準地区中 10 準地区) 【1・2 年次】60.7%(28 準地区中 17 準地区) (本事業での形成 4CHU) (本事業以外での形成 3CHU) (ウ) 行政関係者との協働 【期待される成果】行政関係者が子どもの健康と安全を保障するための課題への理解を深め、行政施策や公式発言に反映される。 【成果を測る指標】 行政関係者から住民への子どもの健康と安全の保障につながる本事業経験に基づく助言事例が 10 件発現する。 助言事例： 【開始時】0 件 【1・2 年次】15 件 次の事例、他 10 件を確認している。 ・地区および準地区行政官が住民の健康を優先して、異なる地区に属する 2 準地区 1CHU 形成を承認した。 ・準郡保健局が 1CHU 1 報告所の方針を転換し、CHV の報告の便を図るために 1CHU で 2 報告所も認めるよう施策を変更した。 ・ミアンゲニ準地区長が、CHV 研修修了者を増加させる為に村長老と協議し、自らも看護官、CHV を励ますとの発言があり、熱心に状況改善に取り組んでいることを確認した。
--------------------	--

	・公衆衛生官、ミアンゲニ準地区長が協働し、ミアンゲニ CHV 候補へ手当なしで補習研修を実施した。 ・公衆衛生官が当会の補修・建設教室の効果を確認し、他校に推奨する補修技術・住民参加の方法として行政指導していることを確認した。
(4) 持続発展性	本事業に参加した関係者は、子どもの健康と安全を保障するための課題への理解を深め、活動を通じた問題分析・合意形成を繰り返し行うことで自律的に課題へ取り組む意欲が向上し、状況改善を図る活動が発現している。 (ア) 保護者の学校運営能力向上 外部監査人による事業監査での聞き取りでは、乾燥野菜、土壤保全、建物の構造強化の自宅での実践および周りの地域住民への普及等、保護者の自律的な活動を確認した。また、保護者でもある当会育成の CHV が保護者と協力し、学校給食のための乾燥野菜作り、学校のトイレを掃除する活動を行っており、CHV が学校保健に貢献する相乗効果が発現した。子どもの安全で快適な学習環境の形成が自律的に展開しており、成績が教育区で最優秀になった、保護者は子どもが学校に通うよう促すようになったなどの前向きな変化も確認され、さらなる発展が期待される。 (イ) 地域保健戦略の強化 CHV を育成して、CHU を持続的に発展させるためには、地域の保健活動が無償で担う意欲・意識が高い CHV を住民自身が見出すことが前提と考え、地域リーダー保健研修や村訪問など、CHV 候補の選出に配慮してきた。一方、住民が、研修を修了した CHV を地域の保健リーダーとして受け入れない事例が多くみられ、住民と CHV との信頼関係を醸成する分野でも協力が必要と分析した。これまで、CHV への追加研修として、エイズ研修と子どもの保護研修を形成し、CHV が協力して住民へ直接に課題を教える学習会を促進させている。これら学習会を通して、住民が CHV を地域の保健リーダーとして信頼する状況を形成することと、今後、研修分野を早期性交渉予防、手洗い・トイレ・栄養バランスの取れた食事などに広げていくことで、CHV と住民との安定した持続的な信頼関係の醸成を図る。また、CHV の持続的な保健活動のためには、それを支える保健局、特に最寄りの診療所などの支援が重要だが、保健局の現場担当者である地域保健普及官 (CHEW) が十分な支援を行わない事例も多くみられており、これら課題を解決するために CHEW への研修も実施することを保健局と合意している。 (ウ) 行政関係者との協働 行政関係者が当会との協議をととして子どもの健康と安全を保障するための理解を深め、新たな視点を蓄積し、地域での住民への指導、政策の優先順位付け・決定・適正な実施に反映される事例を確認した。また、住民からの聞き取りによると、行政官が事業に取り組むよう住民を支援するようになったなど、行政官の行動変化を肯定的に捉えている複数の発言があり、今後このようなアプローチが地域の課題解決へも応用される見込みである。さらに、地域保健戦略担当のマシंगा準郡公衆衛生官は、活動の経験を準郡内の学校への助言・指導に活用しており、事業効果の普及が実現されている。

(ここでページを区切ってください)